

招待講演(認定資格更新講座Ⅱ)

時間: 13:00~14:00

座長:



活性酸素 —酸化ストレスと抗酸化について—

渡井 健男

日本酸化療法研究会会長

講演抄録

人類は、酸化と抗酸化によって進化、発生した生物であり、現在もなお、その体内で活性酸素を利用しながらも、活性酸素によりダメージを受け、酸化と抗酸化をくりかえしながら生存している。

老化、動脈硬化、がん、パーキンソン病、痴呆、アレルギー疾患、膠原病など、活性酸素が原因と考えられている疾患は数多くあり、現代の医療は抗酸化に向かっているといても過言ではない。近年、アンチエイジングサプリメントの多くが抗酸化を詠い、あたかも酸化療法により消去系を活性化してこれらの問題の解決に向かっている様であるが、一方で、これは偏ったアプローチであり、誤りでもある。

フィンランドショックに代表される様に、様々な抗酸化物質の投与が、むしろ発がん性を促進したり、活性酸素の発生と酸化を促進する事があるという事実は、活性酸素の専門家の間では、もはや常識なのである。

酸化療法とは、ヨーロッパやアメリカでは60年以上前から行われている治療法であり、一部の国では保健医療としても認知されている。これは一見有害であると思われるオゾン、紫外線、過酸化水素などの酸化物質を、様々な方法で人体に投与する治療法である。すなわち、計算された酸化ストレスを与える事によって、酸素化、免疫力、抗酸化力を促進し、様々な疾患の治療に応用する治療法である。

当酸化療法研究会は、日本で初めて「酸化療法」の概念を主体とする研究会であり、今回は、オゾン療法、血液紫外線照射法、過酸化水素点滴療法の概要と、その臨床的効果について解説する。

演者略歴

渡井 健男(わたらい たけお)

日本大学医学部第2外科学教室(心臓血管外科)出身
大学院の研究テーマは
「急性動脈閉塞後の再還流障害における Free Radical Scavenger(ビタミン C)の投与効果の検討」

東海渡井クリニック院長
日本酸化療法研究会会長
ドイツ Humares 社認定オゾン療法インストラクター
スペインオゾン学会 AEPROMO 会員
ACAM(American College for Advancement in Medicine)会員